

人工知能学会 AI チャレンジ研究会・L^AT_EX スタイルファイル

L^AT_EX Style file for manuscripts of JSAI AI Challenge

知能太郎

Taro CHINO

人工知能学会

The Japanese Society for Artificial Intelligence

chinou@****.ac.jp

Abstract

ここに概要を記入します。言語は日本語・英語どちらでも構いません。本稿では、人工知能学会 AI チャレンジ研究会の L^AT_EX スタイルファイルについて述べます。これはスタイルに従った原稿です。

1 はじめに

この文書をご参照の上、原稿をお作り頂きますようお願いいたします。この手引きは L^AT_EX 用スタイルファイルの使い方を説明したもので、これ自体もサンプルとなっています。

2 全般的事項

2.1 ファイル形式・サイズ

Adobe(R) PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを提出してください。その他の形式での提出は受け付けませんので、ご注意ください。提出は CFP で指定されたメールアドレスに添付して送付をお願いします。ファイルサイズは任意ですが、3MB 以下を推奨します。また、ファイル名の拡張子は .pdf にしてください。ページ番号を PDF に追記しますので、暗号化などせずに編集可能な状態でお送りください。

2.2 原稿枚数

下記指定フォーマットで A4 用紙です。ページ数は決まりはありませんが、6~8 ページくらいにしてください。

2.3 箇条書きについて

箇条書きについては以下のようにしてください。

1. サンプル 1



図 1: Sample Image

表 1: Sample Table

サンプル 1	サンプル 2
サンプル 3	サンプル 4

2. サンプル 2

3. サンプル 3

- サンプル 1
- サンプル 2
- サンプル 3

2.4 図と表について

図・表は、印刷しても問題ない程度の解像度を持つようにご留意ください。図・表のキャプションは英語にしてください。図は Figure~\ref{ } と、表は Table~\ref{ } と参照してください。例えば Figure 1, Table 1 となります。

2.5 脚注

脚注は、下にある例のように¹通常の \LaTeX ([Lamport 86]) の書き方である `\footnote{ }` を使って書きます。

2.6 参考文献

`j(-)article.cls(sty)` (欧文論文の場合は `article.sty(cls)`) が用意しているものを使うことになります。著者名、文献名、ジャーナル(出版社)、発行年など、イニシャル、略語のスタイル、記載順などは人工知能学会論文誌の規則に従ってください。`jbibtex` を使う場合は論文誌用の \LaTeX スタイルファイルと同時に配布されている “`jsai.bst`” を使うことをお勧めします。参照ラベルの `\cite{ }` も本文中に [Knuth 84] のように書いて使えます。最後の部分に参考文献のサンプルが添付してあります。

2.7 その他

通常の \LaTeX の組版と変わりありません。`j(-)article.clssty` (欧文論文の場合は `article.sty(cls)`) で扱えるものはすべて使うことができます。

3 \LaTeX 原稿のスタイル

論文のスタイルを統一するために、原稿はできるだけ付属のスタイルファイルを使ってください。スタイルファイルは以下のように指定してください。

```
\documentstyle[ppai-j]{jarticle}
```

“`ppai.sty`” は以上のように、標準で配布されるパッケージである `jarticle.sty`, `j-article.sty`, `jarticle.cls` (欧文論文の場合は `article.sty`, `article.cls`) を主のスタイルファイルとして、それにオプションという形で使うように設定されています。“`ppai.sty`” はタイトル部分、文字組の調整、一部脚注の調整以外は行っていません。

3.1 “`ppai.sty`” を使うことで指定が不要なもの

“`ppai.sty`” を使えば、次の指定は必要ありません。

- ページ番号の書式
- マージン等の位置
- 用紙 (A4) 用紙
- 本文 (2 段組)

3.2 “`ppai.sty`” を使うことで指定が必要なもの

タイトル領域：“`ppai.sty`” の書き方のきまりは次のようになります。

- タイトル：

¹この例が脚注です。

```
\title{
和文タイトル \\
{\normalsize\bf 欧文タイトル}
}
```

なお、欧文論文の場合は、単に

```
\title{欧文タイトル}
```

としてください。

- 筆者名 (同一所属の場合)：

```
\author{%
氏名 1, 氏名 2 \\
{\normalsize\bf Name1, Name2} \\
所属 1 \\
{\normalsize\bf Affil1} \\
email1, email2
}
```

なお、欧文論文の場合は、単に

```
\author{%
Name1, Name2 \\
Affil1 \\
email1, email2
}
```

としてください。

- 筆者名 (所属が異なる場合)：

```
\author{%
氏名 1${\ast 1}$, 氏名 2${\ast 2}$ \\
{\normalsize\bf Name1${\ast 1}$, Name2${\ast 2}$} \\
所属 1${\ast 1}$, 所属 2${\ast 2}$ \\
{\normalsize\bf Affil1${\ast 1}$, Affil2${\ast 2}$} \\
email1, email2
}
```

参考文献

[Knuth 84] Knuth, D. E.: The \TeX book, Addison-Wesley (1984), (邦訳： \TeX ブック, 斎藤 信男 監修, 鷲谷 好輝 訳, アスキー出版局 (1992)).

[Lamport 86] Leslie, L: \LaTeX : A Document Preparation System (Updated for $\text{\LaTeX}2\epsilon$), Addison-Wesley, 2nd edition (1998) (邦訳：文書処理システム $\text{\LaTeX}2\epsilon$, 阿瀬 はる美 訳, ピアソン・エデュケーション, (1999)).